

ジャーナリズムを考える市民連絡会とやま

ジャーナリズムを支える「当事者」 （読者・視聴者）の一人として ジャーナリズムの現在を考えています



市民が問うジャーナリズム

※画像はHPより(<https://civic-journalism.Toyama.web.jp>)

2019年9月発足 1 / 3

活動の3つの柱

ジャーナリズムを考える市民連絡会とやま

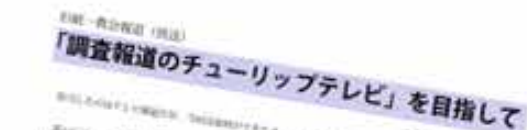
- ・ **例会** 【議題】 ニュースレターの掲載記事について/最近のメディア問題/ワンポイント学習会(2025年4月例会では今年の3.11報道)
- ・ **ニュースレターの発行** (最新号44号) ※連載「沖縄のいま」。琉球新報読者の会員が富山であまり伝えられない沖縄の現状について報告。時々のかえたいメディア問題について報告。
- ・ **注目されているジャーナリストの講演会** 年に一回or二回
 - 2019 共同通信編集委員 原真さん「安倍政権とメディア」
 - 2020 北陸朝日放送報道局長 黒崎正己さん「新聞記者 桐生悠々 忖度ニッポンを噛む」
 - 2021 毎日放送ディレクター 齊加尚代さん「何が記者を殺すのか」
 - 2022 朝日新聞諏訪支局長 依光隆明さん「ジャーナリズムと調査報道」
 - 2023 毎日新聞金沢支局長 戸田栄さん「体験的新聞記者論」
 - 2024 (3月)元NHKディレクター 七沢潔さん「テレビ局で原発の番組を作る重要さとシンドさ」
(12月)元NHKディレクター 大森淳郎さん「『ラジオと戦争』の著者が語る放送人の報国」

ニュースレター紹介 全てのニュースレターはHP掲載(<https://civic-journalism.Toyama.web.jp>)

2024年12月講演会の記録

[illegible]

地元紙は旧統一教会問題を
どのように報道したか

[illegible][illegible]

大塚隆夫



講演中の大森さん

「ジャーナリズムを愛する市民連合」とや定款成立周年記念講演会

「ラジオと戦争」の著者が語る放送人の報国



「動たな戦国」と評される日本。一方で、地方に分散し、自主組織のほぼ全てが報道が世に及ぶ。今や戦国版の自由放任型社会は世界180ヶ国中100位(2024年)と低迷している。改めて戦国版の戦争と言論自由の時代の国家の「権限」を勘るる者も意味は決して小さくはない。藤原の大森厚彦さんは「国家のディレクターとして数々の政治危機を物納せられた方。その長らくの戦国版の経験を通じて感じてこられた現在の国家の課題。メディアの危機にぜひとも話していただき」が予定だ。

12月21日(土) 13:30~15:30 サンプル会 307・308

参加費 1000 円 (高校生以下無料)



DAVID A. CLARK (BA)

【経歴：大森淳司さん】
1997年放送局に入社。1998年海外へ入局。約10年は海外に滞在。主にテレビ番組を手掛ける。2016年に放送局を退社。株式会社文化芸術研究所に勤務。2021年退任。著書に「TBC物語、紅葉からの声」（日本放送出版協会、2008年）、「フィックス・ポイント ネットワークでつくる国際放送局の再編成」（講談社、2017年）「ラジオと音楽家」(平凡社、2021年)。

来源: 东方财富网 东方财富网 东方财富网 东方财富网 东方财富网 东方财富网 东方财富网 东方财富网 东方财富网 东方财富网

「旧統一教会」報道をインタビュー記事も織り交ぜて特集を組み考察した27号の一部